

編輯を終へて

◇……雑誌の發行には何と云つても印刷工場の充實したものを選ばねばならない、活字の豊富、印刷の鮮明、文選、植字の巧緻——それ等は雑誌發行者の特に留意すべき最大條件である。それで本誌はあらゆる犠牲を忍んで印刷所を變更した、その結果、餘儀なく八月以來休刊するに至つたのであります。

◇……一回たりとも休刊すると云ふことは、御愛讀の各位に對し洵に申譯ありませぬ。然し本誌をして光彩陸離たらしむべき序曲であることを諒とせられ、休刊の罪を御寛恕あらんことを只管お願ひ申します。そして本誌は八九十の三分を倍大し、内容に於て最も充實せることの御認識を頂いてゐるものと深く信じております。

◇……更に此の機會に各位に御報告申すべきは、久しく編輯の任に在つた大西重孝君が辭せられ、藝術に理解を持ち、殊に淨瑠璃道に造詣の深い人に編輯を委嘱しました新編輯者は欣々然としてお引受下さると共に、編輯面を一新し、生氣と新味の溢るゝ編輯によりて愛讀家各位の前に提供したのであります。洋々として盡きざる本誌の發展性は、本誌以後において更に躍如たる

ものあるべきを確信し、一層の御愛讀を懇願致します。

◇……創刊四十五年の永い歴史を傳統し來つた本誌が、大西重孝君が編輯を擔任して以來、各方面から多大の讚辭を博した、編輯といへば、原稿を羅列して校正するだけの任務ではない、原稿の配列、校正の確實、外觀内容の體裁から挿繪寫眞版等の選擇など、人知れぬ苦心と頭腦を勞して始めて上梓される。その努力たるや編輯術に經驗のない人には知られない、謂はゞ地味な拾石同様で、大西君は黙々として拾石役を擔任して下さつたのであります。本誌が淨瑠璃操狐界に羈を稱するは蓋し大西君の黙々たる拾石役の結晶の現はれに外なりませぬ。

◇……此の同君の功績に何等酬ゆることなくして同君が本誌を去られることは、同君に對して洵に申譯ない非禮である、然し本誌が燦として淨瑠璃界に輝くことは大西君の功績として大きな足跡である、たゞ後任編輯者が非才魯鈍、大西君の功績を後繼し得らるゝやを危んでおります。此の機會に大西重孝君に對し衷心より敬意と感謝の意を表します。

淨瑠璃雜誌 第四百廿二號

(昭和十八年十月廿五日)
(毎月一回 二十日發行)

本誌 一部 金五十五錢(送料四錢)
特別 行爲稅相當額(錢) 金六錢
價目 六部 金三圓三十錢(稅共)
十二部 金六圓六十錢(稅共)

○御注文は一切前金の事
○雜誌發送を以て領收證に代ゆ
○外國送りは一冊に付郵稅十錢を要す
振替は浪花名物淨瑠璃雜誌社。
口座大阪三九二八番

廣告料

普通 一行 金三十錢
一等 一行 金二十錢
二等 一行 金三十錢
三等 一行 金三十錢
○特等は一頁以下の需に應ぜず六圓以上の特約には割引す
○廣告料は總て前金の事
○一行九ポイント活字

發行所 樋口虎之助

編輯人 樋口虎之助

印刷所 盛進堂印刷所

發行所 淨瑠璃雜誌社

大阪府西成區千本通二ノ三二
(西六九九四)